

授業計画(シラバス)

教科	一般	科目	経営概論		対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	前期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)、 中林 昭雄(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	非該当	総時限	17時限	授業方法	義講	評価方法	学科試験 単元試験	取組加減
〔授業概要・目的〕								
・1級整備士としての対人関係能力及びコミュニケーション能力の向上。								
・相手(個人及び集団)への影響力を高める(PIA)								
〔授業の到達目標〕								
・ソーシャルスタイルを知り、相手にあった対応力を身につける。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
PIAテキスト、ディーラーオペレーション研修テキスト								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	2(2)	ディーラーオペレーションテキスト内容の理解						
		1、点検料金、点検実施率 2、粗利益について 3、L-MAXについて 4、部品用品在庫関連システムについて						
		5、マモル、まかせチャオについて 6、カーケアメニューについて						
	2(4)	PIA事前アンケート						
		・ソーシャルスタイル判定のためのアンケート						
		各人5人に記入依頼と各人の苦手な相手をイメージしたアンケート記入						
	12(16)	PIAオリエンテーション研修						
		1、PIAオリエンテーション						
		・ペルソナのねらい・目的・チームの課題検討・発表						
		2、コミュニケーションとインフルエンス						
		・コミュニケーションの定義 ・インフルエンスとは ・リーダーシップとは ・8つの社会的勢力 ・信頼の4要素						
		3、ソーシャルスタイルの理解						
		・他人からみた自分 ・2つの尺度 ・4つのソーシャルスタイル						
		4、ソーシャルスタイルの判定(相手のスタイルを知る為の技術)						
		・著名人のソーシャルスタイル ・ソーシャルスタイルのフィードバック ・ジョハリの窓について						

		5、共感性の高め方
		・共感とは ・積極的傾聴について ・ボデーランゲージの効果
		6、異なるソーシャルスタイルへの対応法
		・メンテナンスサイクル ・柔軟性 ・各スタイルの弱みの縮小化
		7、インフルエンスプロセス
		・概要説明 ・交渉の6段階
	1(17)	単元試験

授業計画(シラバス)

教科	一般	科目	営業実務		対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	後期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	非該当	総時限	17時限	授業方法	義講	評価方法	学科試験 単元試験	取組加減
〔授業概要・目的〕								
・販売会社における実務としての知識を身につけると共に、接客実務の能力向上を図り実践する。								
〔授業の到達目標〕								
・身につけた接客実務の知識を実践できるようになる。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
ディーラーオペレーション研修テキスト								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	5(5)	【営業実務】						
		【販売の基本活動】						
		1、販売のプロセスの概要(顧客の分類)						
		2、見つける活動(見込み客の源泉)						
		3、育てる活動(販促情報、AIDMA)						
		4、売る活動(ホット客、バイイングシグナル)						
		5、守る活動(管理内ユーザー、引継ぎ客)						
	1(6)	【Hondaの施策】						
		・生涯顧客満足の最大化(L-MAX、Cカード)						
	10(16)	【サービス部門マネジメント基礎】						
		【基本事項の確認】						
		1、会社・組織・経営・管理・リーダーシップ						
		2、サービス部門の目的と役割						

		【サービス部門運営のポイント】
		1、サービスマネージャの役割業務
		2、仕事の進め方の基本
		3、サービス活動
		【計数管理の基本】
		1、計数管理(サービスデータ)
		2、売上管理(売り上げ・経費・利益の関係)
		3、計数管理の基本公式(工賃稼働率、サービスカバー率、点車検実施率)
	1(17)	単元確認

授業計画(シラバス)

教科	一般	科目	営業実務		対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	23/04/01
							開講期	前期
教科担当	松下忠史(一級自動車整備士)、勝沼敦(一級自動車整備士)、中林昭雄(一級自動車整備士)、杉本友里恵(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	非該当	総時限	17時限	授業方法	義講	評価方法	学科試験 単元試験	取組加減
〔授業概要・目的〕								
・販売会社における実務としての知識を身につけると共に、接客実務の能力向上を図り実践する。								
〔授業の到達目標〕								
・身につけた接客実務の知識を実践できるようになる。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
ディーラーオペレーション研修テキスト								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	4(4)	接遇マナー研修 外部講師による接遇マナーの基本講習						
	2(6)	コミュニケーション講座 ・少ない情報から話し手の意図を読む ・伝達のコミュニケーション						
	2(8)	販売会社の周辺知識 各種商品の概要やメリット、顧客の囲い込み ・メンテナンスブラザーズマメル、まかせチャオ ・カーケアメニュー ・ホンダCカード ・L-MAXについて						
	2(10)	マナー研修(マナー、常識の基本、挨拶、お辞儀、言葉遣いの練習) ・大人のマナー、常識 ・あいさつ ・お辞儀 ・言葉遣い ・心がけ						

	2(12)	サービス営業活動
		・Hondaのファン客づくり(信頼の絆)
		・お客様の購買心理(AIDMA)
		・効果的な商品説明(FABE法)
		・総合演習ロールプレイング(ほめ言葉の活用)
	4(16)	サービスフロントとして身につけたい知識
		・実績集計(実績管理グラフの活用)
		・お客様管理(来店促進活動・DTF活動)
		・予約管理(予約管理板、チェッカーの活用)
		・サービス活動の実績把握(管理指標と用語の定義)
		・A-CS活動(大変満足獲得活動)
	1(17)	単元試験

授業計画(シラバス)

[illegible]

授業計画(シラバス)

教科	一般	科目	情報処理技術		対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	前期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	非該当	総時限	11時限	授業方法	義講	評価方法	学科試験 単元試験	取組加減
〔授業概要・目的〕								
・社会人としてのパソコン操作能力の向上を図る。								
・サービスフロントシステムの概要を理解し、操作能力を高める								
〔授業の到達目標〕								
・パソコンを使用したサービスフロントシステムで整備受入書の作成ができるようになる。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
ディーラーオペレーション研修テキスト								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	3(3)	インターンシップ先事前調査						
		・インターンシップ先企業の拠点概要、従業員数、取り扱い商品知識を調べる						
	3(6)	インターンシップ事前研修まとめ						
		・インターンシップ報告資料用に事前研修の内容、調査項目をまとめる						
	4(10)	e-ディーラー研修						
		1、サービスフロントシステム概要、操作実践						
		2、電子パーツカタログ操作実践(部品在庫の概要)						
		3、e-ディーラーシステム概要、操作実践						
	1(11)	単元確認						

授業計画(シラバス)

教科	学科 自動車概論	科目	自動車概論Ⅱ		対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	前期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	非該当	総時限	19時限	授業方法	義講	評価方法	学科試験 単元・期末試験	取組加減
〔授業概要・目的〕								
・国家1級総合診断・環境保全・安全管理、法令教材テキスト記載の内容の知識を習得する。								
〔授業の到達目標〕								
・国家1級総合診断・環境保全・安全管理、法令教材テキストの理解を深め国家1級合格レベルの知識を習得する。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
国家1級テキスト ・総合診断・環境保全・安全管理								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	1(1)	環境 地球規模の環境保全とその必要性(プリント環・安-1使用)						
	1(2)	環境 産業廃棄物処理の環境保全(プリント環・安-2使用)						
	1(3)	環境 整備事業所等の固定施設の環境保全(プリント環・安-3使用)						
	1(4)	安全 安全管理意識、火災のあらまし、災害防止、防火防災(プリント環・安-4使用)						
	1(5)	安全 職場における防火防災、救急処置についての心得(プリント環・安-5使用)						
	1(6)	環境・安全復習						
	1(7)	法令 自動車の登録等 施行規則の別表(プリント法-1使用)						
	1(8)	法令 保安基準 点検基準(プリント法-2使用)						
	1(9)	法令 道路運送車両の検査等(プリント法-3使用)						
	1(10)	法令 保安基準＜自動車の寸法等＞(プリント法-4使用)						
	1(11)	法令 保安基準＜原動機等＞(プリント法-5使用)						
	1(12)	法令 保安基準＜車枠及び車体等＞(プリント法-6使用)						
	1(13)	法令 保安基準＜騒音防止装置等＞(プリント法-7使用)						
	1(14)	法令 保安基準＜灯火装置等＞(プリント法-8使用)						
	1(15)	法令 保安基準＜警音器等＞(プリント法-9使用)						

	1(16)	法令 自動車 NOx・PM法(プリント法-10使用)
	1(17)	法令復習
	1(18)	総合復習(15種類のプリントの内容の見直し、復習)
	1(19)	単元試験

授業計画(シラバス)

教科	学科 自動車概論	科目	エンジン制御システム		対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	前期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	非該当	総時限	19時限	授業方法	義講	評価方法	学科試験 単元・期末試験	取組加減
〔授業概要・目的〕								
・国家1級エンジンテキスト記載の内容の知識を習得する。								
〔授業の到達目標〕								
・国家1級エンジンテキストの理解を深め国家1級合格レベルの知識を習得する。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
国家1級テキスト ・総合診断・環境保全・安全管理								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	1(1)	電気・電子回路の基本と測定技術知識の習得(プリントE-1使用)						
	1(2)	オシロスコープの活用知識の習得(プリントE-2使用)						
	1(3)	電気回路の構造、機能、点検知識の習得(プリントE-3使用)						
	2(5)	センサ関連知識の習得(プリントE-4～E-5使用)						
	4(9)	アクチュエータ関連知識の習得(プリントE-6～E-9使用)						
	2(11)	CAN通信システム知識の習得(プリントE-10～E-11使用)						
	1(12)	電子制御装置に関する故障診断の進め方(プリントE-12使用)						
	1(13)	センサ系の故障診断(プリントE-13使用)						
	1(14)	エンジン警告灯無点灯時の点検、整備方法(プリントE-14,15使用)						
	1(15)	新技術 ハイブリッド車関連の知識の習得(プリント新-1使用)						
	1(16)	新技術 圧縮天然ガス自動車関連の知識の習得(プリント新-2使用)						
	1(17)	新技術 筒内噴射式ガソリン・エンジン関連の知識の習得(プリント新-3使用)						
	1(18)	新技術 コモン・レール式高圧燃料噴射装置関連の知識の習得(プリント新-4使用)						
	1(19)	単元試験						

授業計画(シラバス)

[illegible]

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実習 サービスマネジ メント	科目	サービスマネジメントⅡ	対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	23/04/04
						開講期	前期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、勝沼 敦(一級自動車整備士)						
実務経験教員授業	非該当	総時限	29時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価 取組加減
〔授業概要・目的〕							
・サービスマンとしての知識・技術の習得を通じ、自己のスキルアップを目指す。							
・企業実習の事前研修として与えられた課題を履修する。							
〔授業の到達目標〕							
・販売会社が求めるサービスマンとしての知識、技術力を身につける。							
・SE2級資格受験レベルの知識、技術力を身につける。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)							
〔使用教科書・教材等〕							
・法令教材 ・SE2級テキスト ハード編、ソフト編							
授 業 計 画 表							No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)					
1	12(12)	・自動車販売に関する周辺知識(別資料にて説明)					
		・点検整備・洗車サービスの概要(記録簿の記入、洗車のポイント)					
		・車庫入れ実践					
		・作業実践(各種点検整備、洗車、ブレーキ系整備、ワイパーブレード交換等の付帯作業)					
	2(14)	実習確認					
2	3(17)	SE2級実技試験対応授業					
		・各種センサ、アクチュエータの点検確認方法の復習					
		HDS、サーキットテスタを使用して電圧の確認					
		電子マニュアルを使用して配線図、測定データより異常個所の絞込み、状態の判断ができるようになること					
		・お客様苦情対応の練習					
		SE2級テキスト ソフト編DVDを使用してロールプレイングの練習実施					

	4(21)	SE2級認定確認
	8(29)	企業実習対応
		・作業実践
		各種実習車両、教員自家用車を使用してのまごころ点検、洗車、付帯作業の実施

授業計画(シラバス)

[illegible]

授業計画(シラバス)

教科	実務実習 体験実習	科目	企業実習		対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	23/04/04
						開講期	前期	
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)、 実習先各企業							
実務経験教員授業	該当	総時限	44時限	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価 取組加減	
〔授業概要・目的〕								
・授業で学んだ理論と技術を実際の職場で実践、確認することで、自己の弱点を把握し、卒業までの具体的な課題と目標を明確にする。								
・社会人としての自覚、お客様に対する意識の向上を図る。 ・販売店業務及びサービス実務内容の全般を理解する。								
〔授業の到達目標〕								
・販売会社が求めるサービスマンとしての知識、技術力を身につける。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)								
〔使用教科書・教材等〕								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	44(44)	第1回インターンシップ						
		①サービススタッフの基本						
		心構え、言葉遣い、挨拶、朝礼参加、毎日スピーチ(前日の実習内容と当日の目標)						
		②点検整備及び修理の実施 ＊時間、効率を考えた作業の実践						
		クイックサービス(エンジンオイル、灯火類の交換など)						
		定期点検(まごころ点検、12ヶ月点検)						
		簡単な故障診断(症状の確認から診断、修理方法の習得)						
		③サービス業務の理解と実践						
		作業の流れ(受付、整備作業、引き渡し、お確かめフォロー)の理解						
		フロントアドバイザーの基本作業の習得(受付、作業指示、作業管理)						
		第2回インターンシップ:10月 予定						

授業計画(シラバス)

[illegible]

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	専門実習		対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	前期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	非該当	総時限	60時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価	取組加減
〔授業概要・目的〕								
・エンジン系センサの信号電圧、アクチュエータの駆動信号電圧の理解度を向上させる								
・DMM・オシロスコープ・半導体・外部診断機等専門知識の幅を広げる								
〔授業の到達目標〕								
・1級整備士としての実践的な整備技術を身につける。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)								
〔使用教科書・教材等〕								
・1級テキスト エンジン電子制御 ・SE2級テキスト ハード編								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	14(14)	・GBフリードを使用してDCTトランスミッション及びEPSの脱着を行う						
		1、電子マニュアルにて作業手順を調べてから作業を行う						
		2、ミッションジャッキの使用方法に注意						
		3、ステアリングの脱着を伴うのでエアバックコードリールの取り扱いに注意する						
		4、フライホイール・リセットを理解する						
		5、中点値の書き込み方法等、HDSでDCTコントロール・システム学習を理解する						
	14(28)	・デジタルマルチメータ、オシロスコープを使用して半導体について調べる						
		1、デジタルマルチメータの内部抵抗を計算する						
		2、オシロスコープ(デジタル式)の使用方法を習得する						
		3、デジタルマルチメータ、オシロスコープを使用して半導体の特徴を調べて理解する						
	2(30)	総合復習						
	4(34)	実習確認						

2	11(45)	•GBフリードを使用して各種センサの信号電圧を確認する
		1、水温センサ 信号電圧の点検
		2、バキュームセンサ信号電圧の点検
		3、APセンサ 信号電圧の点検
		4、油圧警告灯 信号電圧の点検
		•GBフリードで各種センサ、アクチュエータの信号電圧を変化させて症状を確認する
		1、バキュームセンサ信号電圧特性変化
		2、水温センサ 信号電圧特性変化
		3、インジェクタ駆動信号特性変化
		4、イグナイタ駆動信号電圧特性変化
	11(56)	•ZEインサイトを使用して各種センサの信号電圧を確認する
		1、水温センサ 信号電圧の点検
		2、バキュームセンサ信号電圧の点検
		3、エアフローメータ信号電圧の点検
		4、スロットル開度センサ信号電圧点検
		5、AP（アクセルポジション）センサ 信号電圧の点検
		6、油圧警告灯 信号電圧の点検
		•ZEインサイトで各種センサの信号電圧を変化させて症状を確認する
		1、02, LAFセンサ信号電圧特性変化
		2、ノックセンサ信号電圧特性変化
		3、クランク角センサ信号特性変化
		4、カム角センサ信号電圧特性変化
	2(58)	総合復習
	2(60)	実習確認

授業計画(シラバス)

教科	実務実習 評価実習	科目	応用実習		対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	後期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	非該当	総時限	61時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価 取組加減	
〔授業概要・目的〕								
・エンジン・シャシ系各部門の電子制御装置の総合診断技術を習得								
・新技術・振動騒音等専門知識の幅を広げる								
〔授業の到達目標〕								
・1級整備士としての実践的な整備技術を身につける。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)								
〔使用教科書・教材等〕								
・1級テキスト エンジン電子制御装置 ・シャシ電子制御装置 ・SE2級テキスト ハード編								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	14(14)	・ZEインサイトを使用して各システムのセンサ、アクチュエータの点検、確認を行う 1、ホンダマルチマチック・トランスミッションのセンサ・アクチュエータの確認 2、ATシフトロックシステムの点検 3、オートエアコンシステムについて						
	14(28)	・GBフリードを使用してオートエアコン各部のセンサ・アクチュエータの点検方法を理解し 正常時と異常時の比較をする ・GBフリードを使用して灯火装置等のアース不良時の症状確認を行う						
	1(29)	総合復習						
	2(31)	単元確認						

2	14(14)	・GBフリードにて下記の症状の時の故障診断を行い不良箇所の特定を行う 1、スタータが作動しない 2、アクセルレスポンスが悪い 3、センサ・アース回路の点検 4、エンジン不調
	14(28)	・ZEインサイトにて下記項目を実施する 1、二次空気を吸わせてエアフローメータのデータ変化をHDSで確認する 2、エアフローメータで外部電源（1.5V乾電池）を使用して切り分け法の故障診断を実施 3、バキュームセンサでHDS、スイッチBOXを使用して断線、 短絡時のデータを測定し正常時と比較する 4、アクセルポジションセンサでHDS、スロットBOXを使用して断線、短絡時の データを測定し正常時と比較する
	2(30)	単元確認

授業計画(シラバス)

教科	実務実習 評価実習	科目	応用実習		対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	前期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	非該当	総時限	52時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験	レポート評価 取組加減
〔授業概要・目的〕								
・エンジン・シャシ系各部門の電子制御装置の総合診断技術を習得								
・新技術・振動騒音等専門知識の幅を広げる								
〔授業の到達目標〕								
・1級整備士としての実践的な整備技術を身につける。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90～100点 4:75～89点 3:60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)								
〔使用教科書・教材等〕								
・1級テキスト エンジン電子制御装置 ・シャシ電子制御装置 ・SE2級テキスト ハード編								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	2(2)	・導入説明及び振動騒音プリント実施(1級公論社問題集使用)						
	8(10)	・CVアコードを使用して振動騒音について検証する						
		1、車体振動(減衰力確認)						
		2、吸音材、制振材の種類、効果確認						
		3、排気騒音確認						
		4、ホイールアンバランス確認						
	8(18)	・GBフリードを使用して振動騒音について検証する						
		1、エンジン騒音確認						
		2、吸気、ファン騒音確認						
		3、ブレーキノイズ確認						
	6(24)	・外部診断機の取り扱いについて理解する						
		1、i-HDS						
		2、HDM-2000						
	2(26)	単元確認						

2	4(30)	・新技術のCVTについて学ぶ
		1、ZEインサイトを使用してストール回転テストを実施
		2、" スタートクラッチ機能点検
		3、" インヒビタソレノイド駆動信号電圧確認・点検
		4、CVT単品にて各種構成部品の確認
	4(34)	・GBフリードでVSAについて学ぶ
		1、各種構成部品の確認
		2、舵角センサ脱着、信号波形の確認
		3、ヨーレート・Gセンサ脱着
		4、V S Aセンサ中点書き込み
	4(38)	・GBフリードでSRSエアバック、プリテンショナ・シートベルトについて学ぶ
		1、各種構成部品の確認
		2、サイド・カーテン・エアバックの脱着
		3、ケーブル・リール脱着
		4、サイド・インパクト・センサ脱着
		5、プリテンショナ式シートベルト脱着
	4(42)	・新技術のCNGについて現車(三菱リベロ)で学ぶ
		1、教科書内容確認
		2、各種構成部品の確認
		3、高圧ガス保安法適用標章確認
		・新技術のコモンレールについて単品で学ぶ
		1、教科書内容確認
		2、各種構成部品の確認
		3、燃料流通経路確認
		・新技術の筒内噴射式エンジンについて単品で学ぶ
		1、教科書内容確認
		2、各種構成部品の確認
		3、インジェクタ噴射時間比較
	4(46)	・新技術のHV(ハイブリット)について学ぶ
		1、教科書内容確認
		2、ZEインサイトのIMAバッテリーの脱着
		3、各種構成部品の確認
	3(49)	総合復習
	3(52)	実習確認

授業計画(シラバス)

教科	実務実習 評価実習	科目	総合復習		対象級	専門課程 一級自動車研究開発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	後期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	該当	総時限	61時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価	取組加減
・実務経験のある教員が、現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。								
〔授業概要・目的〕								
・基礎的な各種整備作業の技術的なスキルアップ及び整備関連知識の幅を広げる。								
・国家1級口述試験対応								
〔授業の到達目標〕								
・1級整備士としての各種整備作業能力を身につける。								
・国家1級口述試験合格レベルを身につける								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)								
〔使用教科書・教材等〕								
・1級エンジン電子制御装置 ・1級シャシ電子制御装置 ・1級総合診断 ・自動車定期点検の手引き ・法令教材								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	28(28)	・口述試験対応(問診)						
		1、口述試験概要説明						
		2、口述DVD視聴						
		3、問診概要説明						
		4、思考時間のポイント						
		5、問診ポイント 課題プリント作成						
		6、職員デモストレーション						
		7、学生間ロールプレイ						
		8、対先生ロールプレイ						
	4(32)	実習確認						

2	12(44)	実践整備技術①
		各種点検作業（GBフリード、ZEインサット、CVアコード）
		1、12ヶ月点検
		2、24ヶ月点検
		3、記録簿記入要領
	12(56)	実践整備作業②
		ブレーキ系整備作業（GBフリード、ZEインサット、CVアコード）
		1、ブレーキパッド交換
		2、ブレーキライニング交換
		3、各インナーキット交換
		4、エア抜き作業
	2(58)	タイヤ交換作業実践
		1、タイヤチェンジャーを使用したタイヤ交換(脱着)
		2、ホイールバルンサを使用してホイールバランスの調整
	1(59)	総合復習
	2(61)	実習確認

授 業 計 画(シ ラ バ ス)

教科	実務実習 評価実習	科目	総合復習		対象級	専門課程 一級自動車研究開 発学科4年	作成月日	23/04/04
							開講期	前期
教科担当	松下 忠史(一級自動車整備士)、 勝沼 敦(一級自動車整備士)							
実務経験教員授業	該当	総時限	52時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元試験 レポート評価 取組加減	
・実務経験のある教員が、現場で必要な作業方法・知識について、実務経験を活かしてより実践の内容を指導し授業を行う。								
〔授業概要・目的〕								
・基礎的な各種整備作業の技術的なスキルアップ及び整備関連知識の幅を広げる。								
・国家1級口述試験対応 ・SE2級実技試験対応								
〔授業の到達目標〕								
・1級整備士としての各種整備作業能力を身につける。								
・国家1級口述試験合格レベルを身につける								
・SE2級実技試験合格レベルを身につける								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5:特に成績優秀なもの 4:成績良のもの 3:成績普通のもの 2:成績やや劣るもの 1:成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5:90 ～100点 4:75 ～ 89点 3:60 ～ 74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5:非常に優れている 4:優れている 3:普 通 2:やや劣る 1:劣る(再提出の必要がある)								
〔使用教科書・教材等〕								
・1級エンジン電子制御装置 ・1級シャシ電子制御装置 ・1級総合診断 ・自動車定期点検の手引き ・SE2級ハード・ソフト編								
授 業 計 画 表								No. 1
STEP	標準時限	授業内容(項目)						
1	12(12)	・各種点検作業(GBフリード、ZEインサイト、CVアコード)						
		1、12ヶ月点検						
		2、24ヶ月点検						
		3、点検整備記録簿記入						
	12(24)	・ブレーキ系整備作業(GBフリード、ZEインサイト、CVアコード)						
		1、ブレーキパッド交換						
		2、ブレーキライニング交換						
		3、各インナーキット交換						
		4、エア抜き作業						
	2(26)	実習確認						

2	11(37)	・口述試験対応(整備内容説明)
		1、口述試験概要説明
		2、口述DVD視聴
		3、整備内容説明概要説明
		4、思考時間のポイント
		5、整備内容説明ポイント
		6、職員デモストレーション
		7、学生間ロールプレイ
		8、対先生ロールプレイ
	2(39)	実習確認
	12(51)	SE2級実技試験対応 (GBフリード・ZEインサイト・CVアコード)
		1、灯火回路故障探求実践
		2、エンジン系故障探求実践
		3、シャシ系故障探求実践
	1(52)	SE2級 (ソフト編) 復習